

冬が極まり春の気配が立ち始める立春が過ぎ、野山では早春の花が見られる頃となりました。去年の記録だと、今月はウメやネコヤナギ、フクジュソウ、3月に入ると種類は徐々に増えていき、コブシ、ダンコウバイ、ミツマタ、そして春の花の代表とも言えるカタクリやアズマイチゲなどが美しく咲きました。その後、ヤマザクラやミツバツツジが野山を彩り春爛漫の4月となりました。一方、早春の花のイメージが強いホトケノザやオオイヌノフグリは、早いところでは11月に開花しました。秋期の気温が高かったことが影響したのでしょうか。また、去年は春だけではなく年間を通して開花が少し早まった印象でした。

今回紹介するのは、春爛漫の頃に山地の谷沿いに咲くチャルメルソウの仲間「コチャルメルソウ」です。チャルメルは木管楽器のチャルメラのことで、昔はラーメンの屋台で吹かれていたそうです。このチャルメラに果実の形が似ていることからこの名がつけました。森林レンジャー1年目に、自然資源発掘の目的で入った沢で花を初めて見た時は衝撃を受けました。若松文様に似た花びら、めしべを囲むように5つのおしべが均等に並ぶ不思議な形をした花は、何かの情報を集めるためのアンテナのように見えました。

コチャルメルソウは、特定のキノコバエの仲間が受粉を助けていることが国立科学博物館の研究者によって解明されていて、花びらの形は細長い足を持つキノコバエがとまる足場としての役割があると考えられています。コチャルメルソウにとって、ロ一杯に花粉を付けて運んでもらうために必要な形だったのでしょう。私は、キノコバエが花びらに足をかけて吸蜜する姿を見たことがないため、今年は観察したいと思っています。また、このキノコバエの幼虫は、谷沿いに生育する特定のコケ類を食べて育つそうです。このコケ類が生育する湿潤な谷沿いの環境と、開花期にキノコバエが成虫となっていることが不可欠なコチャルメルソウのつながりを知ると、出会えた時の感動が何倍にも膨らみます。

去年の植物調査では、開花記録のほかに確認した植物種の記録を継続しています。中には、数十年ぶりの発見となった種や、残念ながら開花しなかった種もありました。今年も、様々な影響を受けて変化する自然の調査を継続し、保全や環境教育に役立てたいと思います。(加瀬澤)



不思議な形をした花と
チャルメラに似る果実